

# 市房ダムの概要について

令和8年（2026年）6月2日

熊本県 市房ダム管理所

## 本日の内容

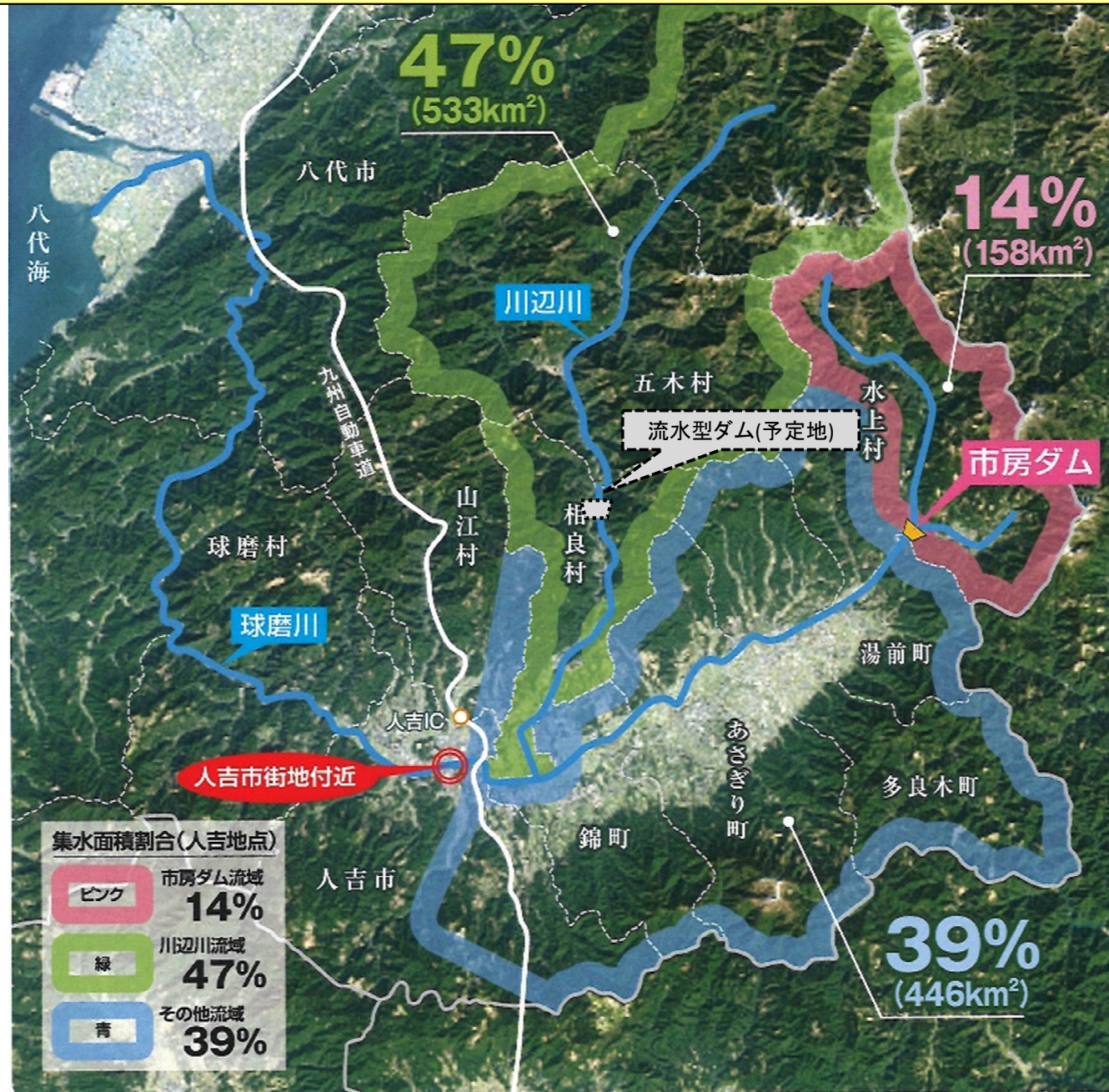
1. 市房ダムの操作
2. 市房ダムからの情報発信
3. 過去の洪水時の状況
  - R2年7月豪雨時の状況
  - R4年台風第14号時の状況



# 1. 市房ダムの操作

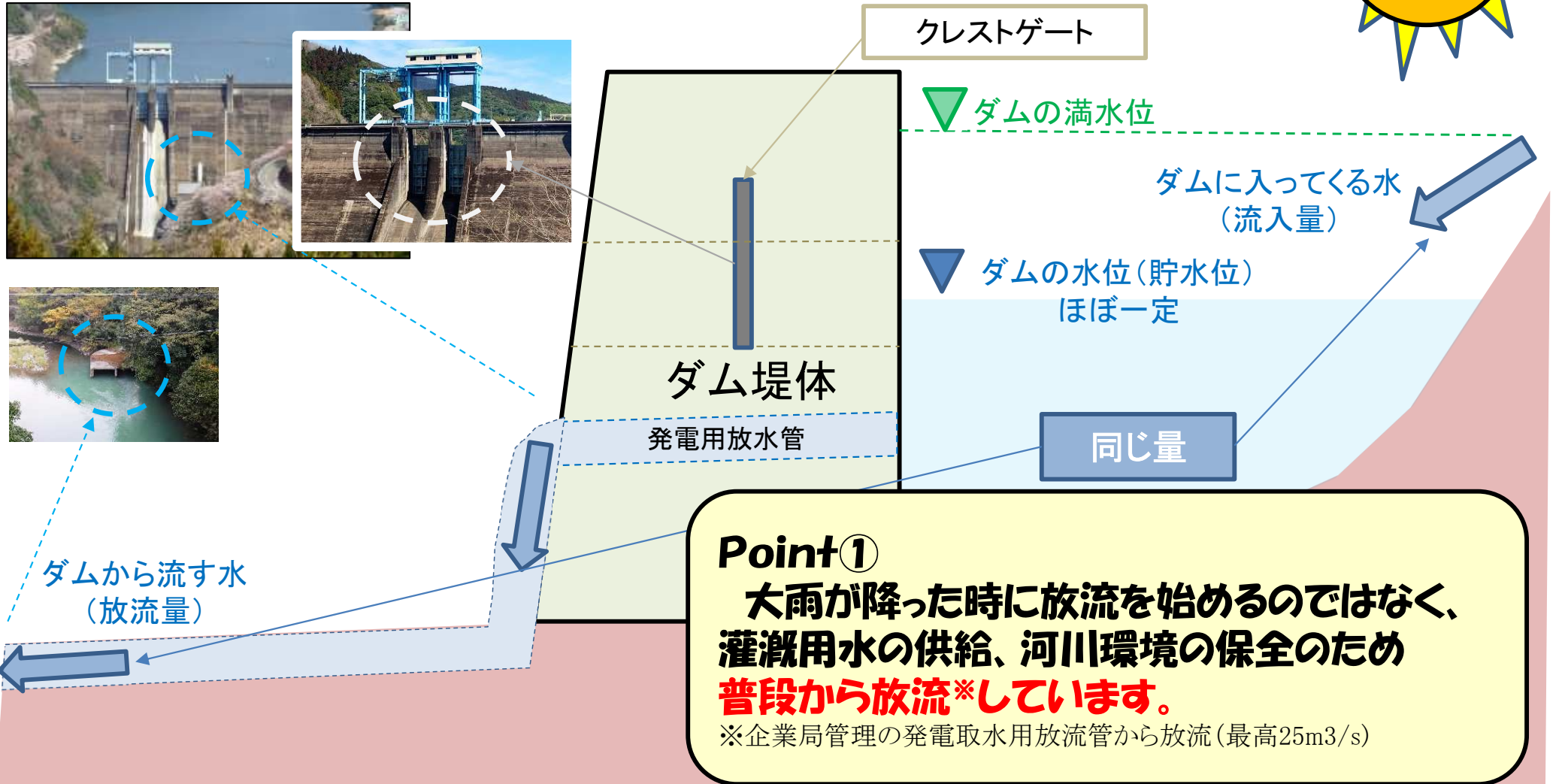
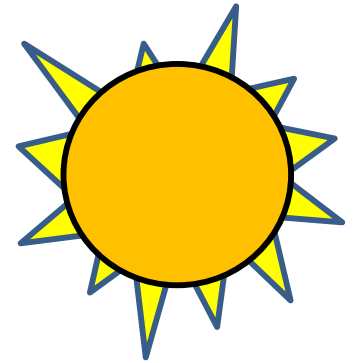
## 球磨川水系の市房ダム上流域の面積割合は約14%

※人吉地点における割合



# ① 普段の時

- ダムから流す水(放流量)≒ダムに入ってくる水(流入量)
- ダムの水位(貯水位)ほぼ変化なし



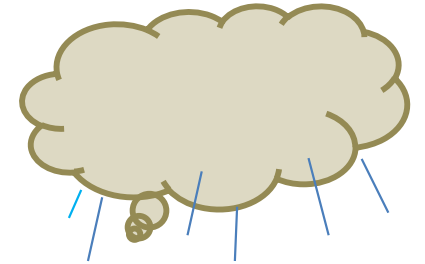
## ②雨の降り始めの時

- 放流量≒流入量
- 貯水位=ほぼ変化なし

市房ダム制御局～多良木警報局



クレストゲート開口



▽ダムの満水位

ダムに入ってくる水  
(流入量)

▽ダムの水位(貯水位)  
ほぼ一定

ダム堤体

発電用放水管

同じ量

ダムから流す水  
(放流量)

### Point②

降雨に伴う流入量とほぼ同じ量をゲートも上げて放流※します。(流入量 > 25m<sup>3</sup>/s)

**ゲートから放流することが「異常洪水時防災操作」(緊急放流)ではありません。**

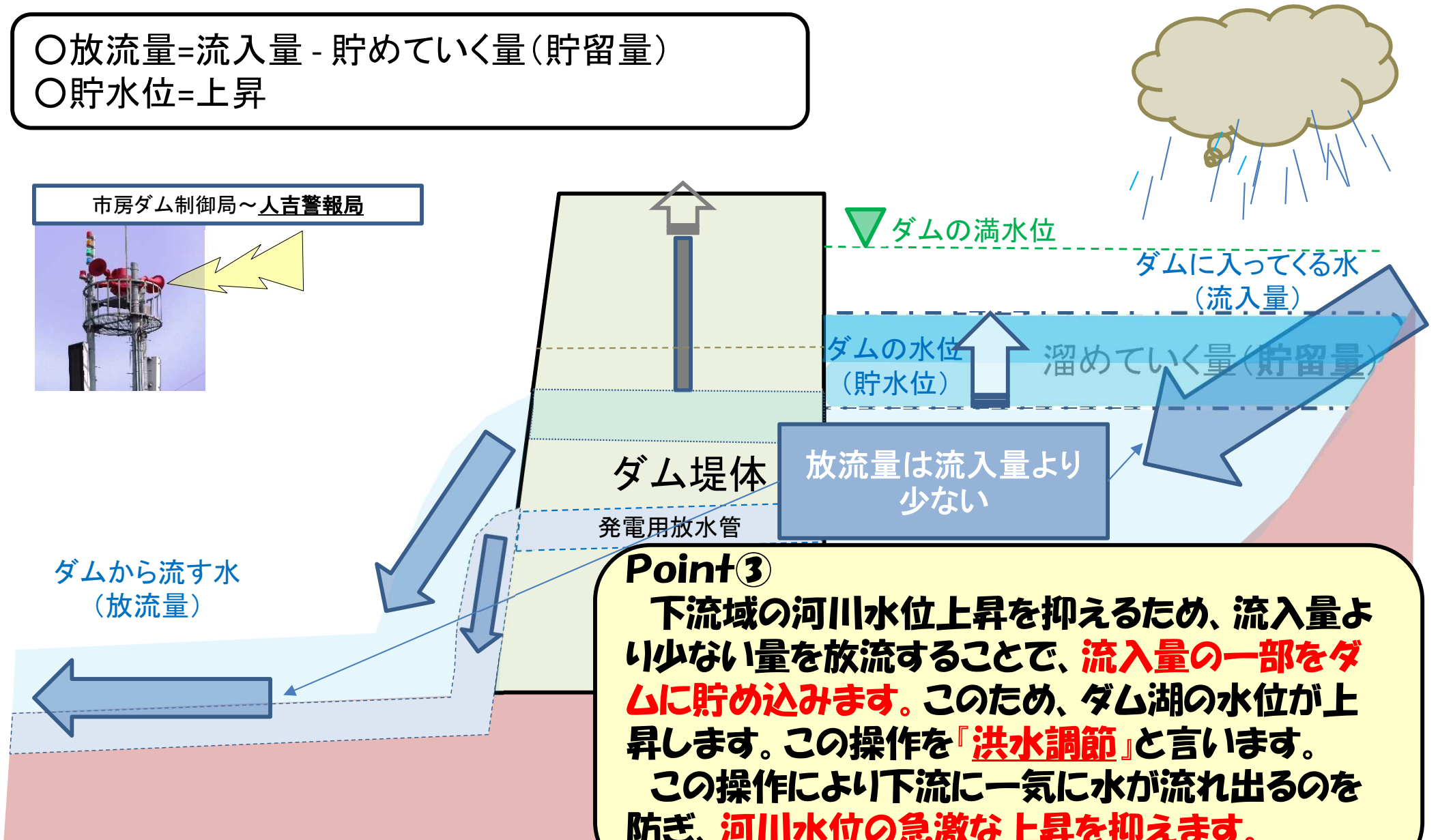
※発電取水用放流管(最大25m<sup>3</sup>/s) + クレストゲート放流

### ③雨が降り続き流入量が $300\text{m}^3/\text{s}$ ※を超えた時

※市房ダム操作規則により流入量が $300\text{m}^3/\text{s}$ (毎秒)に達したら洪水調節を行うことを規定。

- 放流量=流入量 - 貯めていく量(貯留量)
- 貯水位=上昇

市房ダム制御局～人吉警報局



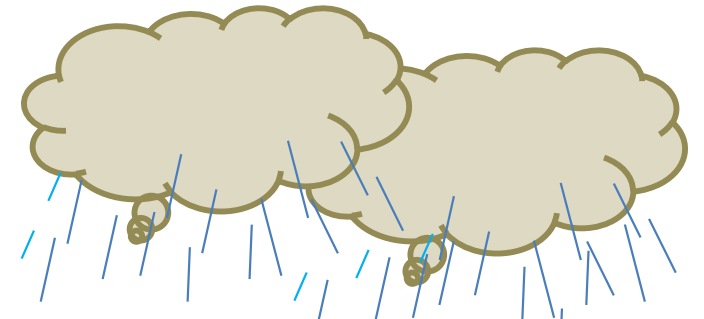
#### Point③

下流域の河川水位上昇を抑えるため、流入量より少ない量を放流することで、**流入量の一部をダムに貯め込みます**。このため、ダム湖の水位が上昇します。この操作を「**洪水調節**」と言います。この操作により下流に一気に水が流れ出るのを防ぎ、**河川水位の急激な上昇を抑えます**。

## ④ 更に雨が降り続き満水位に近づいてきた時

- 放流量を流入量に近づけていく(放流量⇒流入量)
- 貯水位=ほぼ変化なし

これが『**異常洪水時防災操作**』  
『**緊急放流**』と呼ばれているものです。



ダムに入ってくる水  
(流入量)

ダムの満水位

**ダムに溜めた水は、そのまま  
貯め込んだままなんです！！**

ダムから流す水  
(放流量)

ダム堤体

発電用放水管

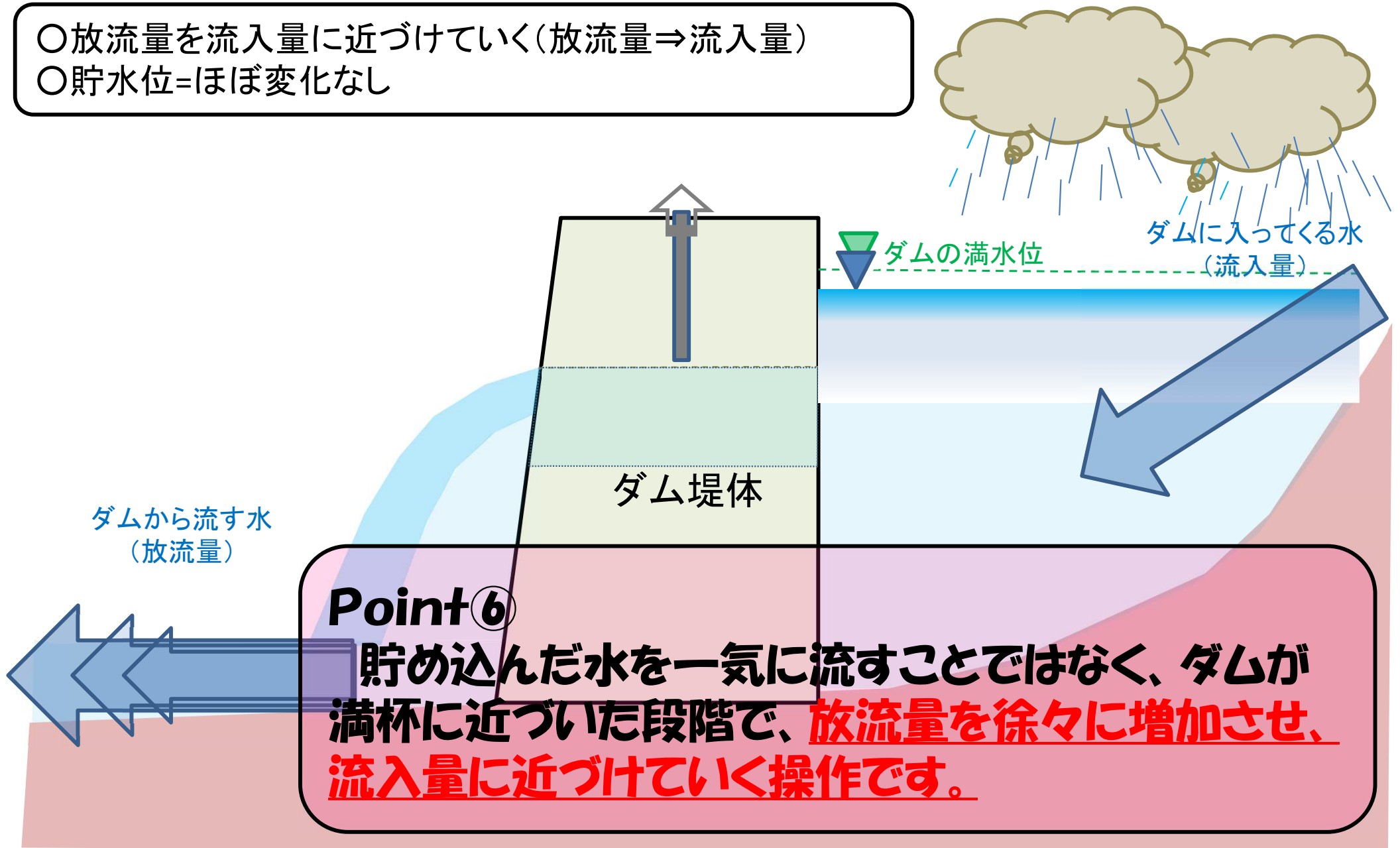
放流量を徐々に流入量に  
近づけていく

### Point⑤

満水位を越えないように、**徐々に放流量を  
流入量に近づけていく**操作です。洪水調節に  
より貯めた水は、そのまま貯めたままです。

## ⑤『異常洪水時防災操作』(緊急放流)とは

- 放流量を流入量に近づけていく(放流量⇒流入量)
- 貯水位=ほぼ変化なし



## ⑥『異常洪水時防災操作』(緊急放流)とは

- 貯めた水を一気に大量放流(放流量>>>流入量)
- 貯水位=一気に下げる

満杯になりそうなので貯水位を  
一気に下げて空っぽにしよう！

ダムから流す水  
(放流量)

ダムの満水位

ダムに入ってくる水  
(流入量)

ダム堤体

ドツバーン

### Point⑦

**このような操作ではありません。**  
『緊急放流』という呼び名が、このよ  
うなイメージを皆さんに与えているので  
あれば、**全くの誤解です。**



## 2. 市房ダムからの情報発信

➤ 市房ダムの操作に関して、熊本県（県庁河川課及び市房ダム管理所）から発信する情報は以下のとおり。

警戒情報等	市房ダムから発信する情報	ダム情報の解説
<b>【警戒レベル1】</b> <b>早期注意情報</b> （気象庁が発表）	<b>放流開始の通知</b> 〔 予備放流開始 事前放流開始 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、市房ダム上流域で大雨となることが予想される場合、ダムにためている水を事前に放流する際に発信する情報。</li> <li>・ダムから放流を開始するため、河川利用者は下流河川の水位上昇に注意が必要。</li> <li>・市町村や報道機関等が災害時における初動体制の構築や住民が洪水に備えるきっかけとなる情報として活用。</li> </ul>
<b>【警戒レベル2】</b> <b>大雨・洪水・高潮注意報</b> （気象庁が発表）		<b>洪水調節開始</b> <b>※流入量300m<sup>3</sup>/sに到達</b>
<b>【警報レベル3】</b> <b>高齢者等避難</b> （市町村長が発令）	<b>貯留能力の半分情報</b> <b>※市房ダム独自の情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市房ダムに水をためる洪水調節を行っており、貯留する容量の半分にあたる水位に達した際に発信する情報。</li> <li>・過去の洪水では、貯留能力の半分に至ってから、数時間で緊急放流に移行したことがあるため、住民は市町村の避難情報等を確認し、家族構成や生活環境に応じて適切な防災行動をとることが必要。</li> </ul>
<b>【警報レベル4】</b> <b>避難指示</b> （市町村長が発令）		<b>緊急放流予告</b> <b>（3時間前、1時間前）</b> <b>緊急放流開始</b>
<b>【警報レベル5】</b> <b>緊急安全確保</b> （市町村長が発令）	<b>緊急放流終了</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダムに流れ込む水の量が減少し、緊急放流を終了した際に発信する情報。</li> <li>・これまでの大雨により下流河川の水位は高い状態が続いているため、引き続き注意が必要。</li> </ul>

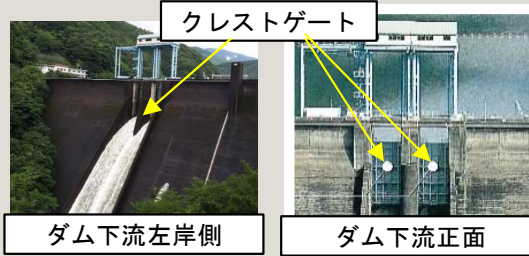
※市房ダムから情報が発信されるタイミングは、警戒情報等とは必ずしも一致しないことに留意  
 市房ダム管理者からは、上記以外に洪水警戒体制及び洪水警戒体制解除の情報を発信

- 危険性を直感的に理解できるように放流状況に応じてたカラー表示で情報発信
- 放流開始時と異常洪水時防災操作時のサイレン音に差をつけることで、放流状況の変化を明確に
- 「洪水調節」や「異常洪水時防災操作」と明言することで、放流状況の変化を明確に

## 【市房ダムから発信される情報】



番号は発信する順番  
2,3の後に7の場合もあります



### 【発信情報の解説】

ダムが満杯になる前に、ダムの下流に放流する量を徐々に増やして、ダムに流れ込んでくる水量に近づけていくときに発信  
【過去に4回】

※緊急放流＝異常洪水時防災操作  
緊急放流では流入量よりも多く放流することはありません

ダムの水位が満杯の水位に達する可能性があるときに発信  
(緊急放流を行う3時間前と1時間前を目安に発信)

市房ダムに水を貯留する容量の半分に達したときに発信  
【2～3年に1回程度】

市房ダムに水を貯め始めたときに発信【年に1～2回程度】

市房ダムのクレストゲートから放流を開始したときに発信

## 【市房ダム下流警報局】

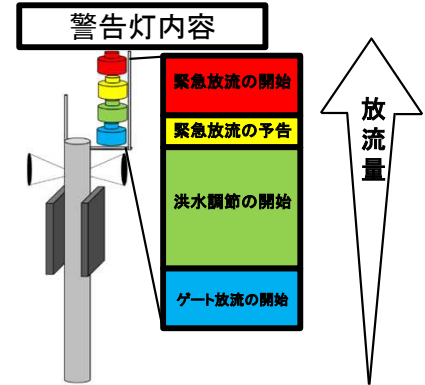
令和5年3月より運用を開始



警報局全景写真



警告灯写真



### アナウンス内容

緊急放流の開始	こちらは、市房ダムです。午前(午後)〇〇時〇〇分から異常洪水時防災操作を開始しますので、(しましたので、)川には近づかないようにしてください。
緊急放流の予告 (1時間、3時間)	こちらは、市房ダムです。午前(午後)〇〇時〇〇分から洪水調節を開始しました。 川の水が増えてきますので、川へ入らないでください。また、川に入っている人は、早く川から上がってください。
洪水調節の開始	こちらは、市房ダムです。午前(午後)〇〇時〇〇分にダムから水を流し始めます。(流しました。) まもなく、川の水が増えてきますので、川へ入らないでください。また、川に入っている人は、早く川から上がってください。
ゲート放流の開始	こちらは、市房ダムです。午前(午後)〇〇時〇〇分にダムから水を流し始めます。(流しました。)
ゲート放流の開始前(30分)	こちらは、市房ダムです。午前(午後)〇〇時〇〇分にダムから水を流し始めます。(流しました。) まもなく、川の水が増えてきますので、川へ入らないでください。また、川に入っている人は、早く川から上がってください。



アナウンス・サイレン吹鳴範囲	ダム地点	多良木	人吉
⑤緊急放流の開始		→	→
④緊急放流の予告		→	→
③洪水調節の開始		→	→
②ゲート放流の開始		→	→
①ゲート放流の開始 30分前		→	→

熊本県が管理するダムでは、災害時における住民の円滑かつ迅速な避難に繋げることを目的に、新たに防災情報メールサービスやSNS等を活用して、ダムの操作状況を発信。

## ●発信する情報

- ・ 予備放流／事前放流
- ・ 洪水調節
- ・ 貯留能力の半分情報
- ・ 緊急放流(予告を含む)

※予備放流と貯留能力の半分情報は市房ダムのみ

熊本県統合型防災情報システム表示例（右記①）



ダム情報の発信例（上記②～④）

### ① 熊本県統合型防災情報システム(ダム操作に関する表示の追加)

統合型防災情報システム内の「ダム情報」から各ダムの操作状況を含めたダム情報を確認することができます。

<http://www.bousai.pref.kumamoto.jp/GmnDsp.exe?M50>

統合型防災情報システム



### ② 熊本県防災情報メールサービス

メールサービスの登録を行い、受信したい情報を選択することで必要な情報を受け取ることができます。

<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/4/56061.html>

熊本 防災 メール



### ③ Yahoo!防災速報

「Yahoo!防災速報」のアプリをダウンロードし、地域を設定すると情報を確認することができます。

Yahoo!防災速報



### ④ X (旧Twitter)

インターネット又はXの検索画面から「防災くまもと」と検索すると情報を確認することができます。

防災くまもと



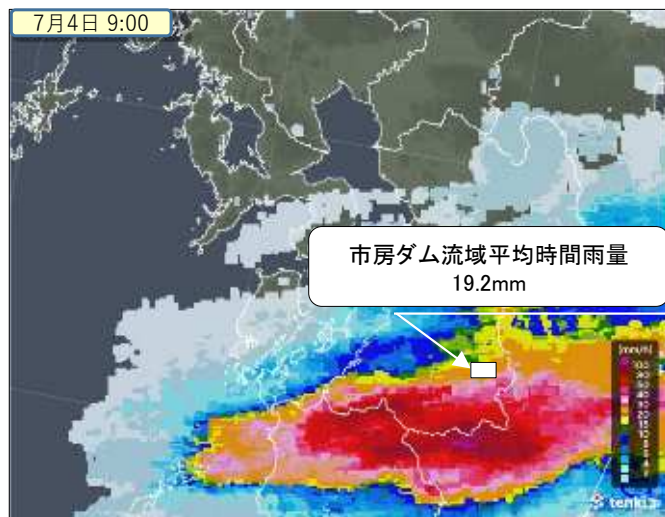
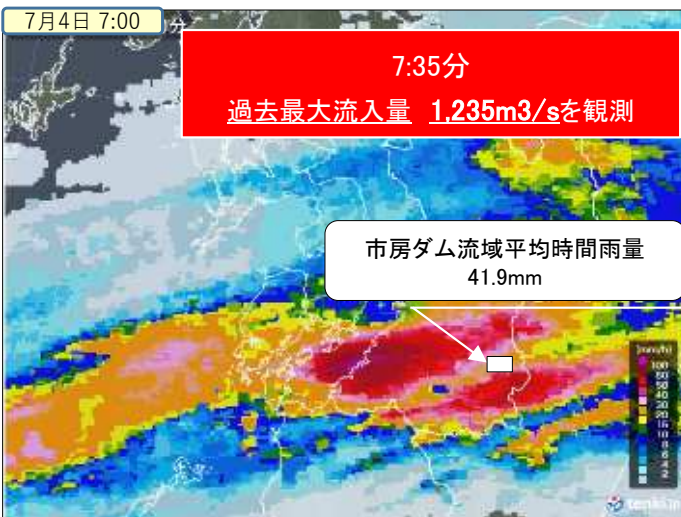
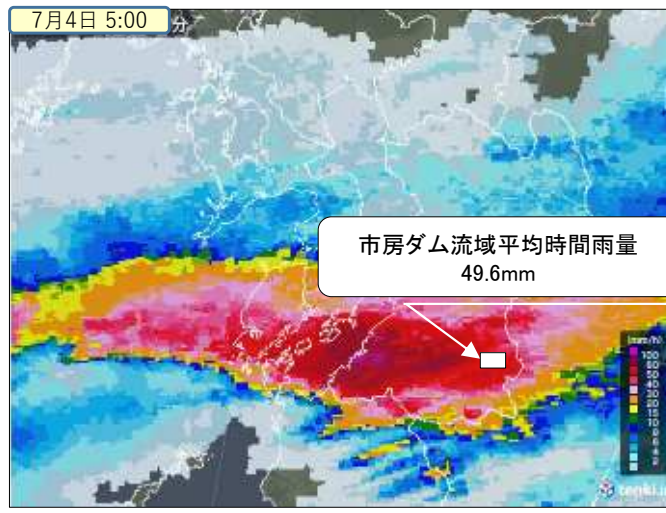
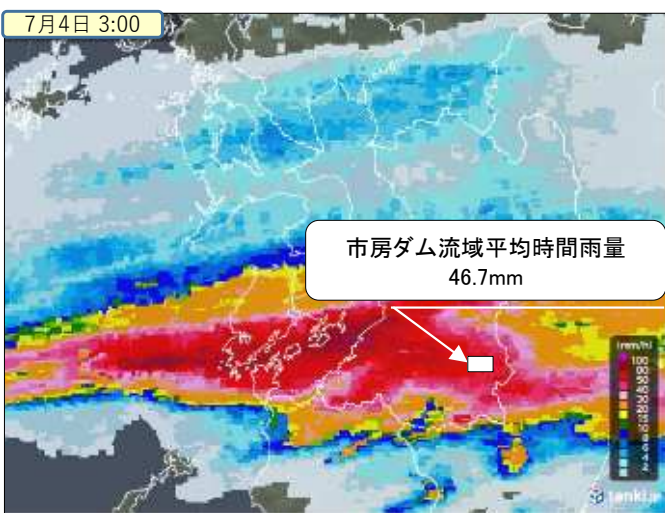
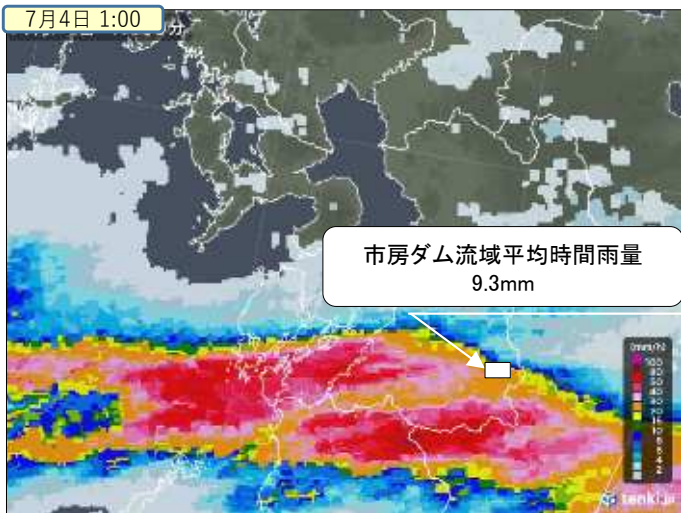
(洪水調節開始の場合)  
この情報は、〇〇ダムが〇時〇分から防災操作（洪水調節）を開始したことをお知らせするものです。  
〇〇ダム上流域では、大雨になっていることから、川の水位の上昇を抑えるため、ダムに流れ込む水の一部をためて、放流する水の量を調節する防災操作（洪水調節）を行っています。  
ダム情報のホームページ  
<http://www.bousai.pref.kumamoto.jp/GmnDsp.exe?M50>



### 3. 過去の洪水時の状況

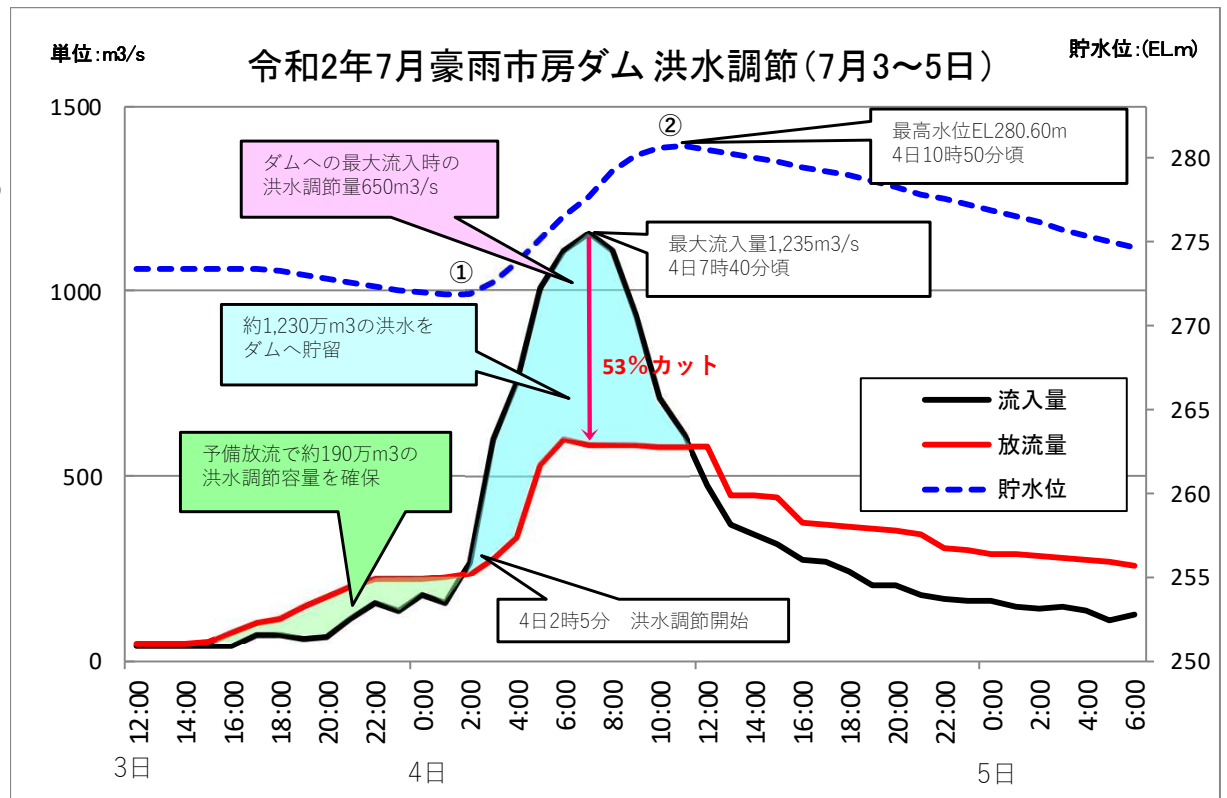
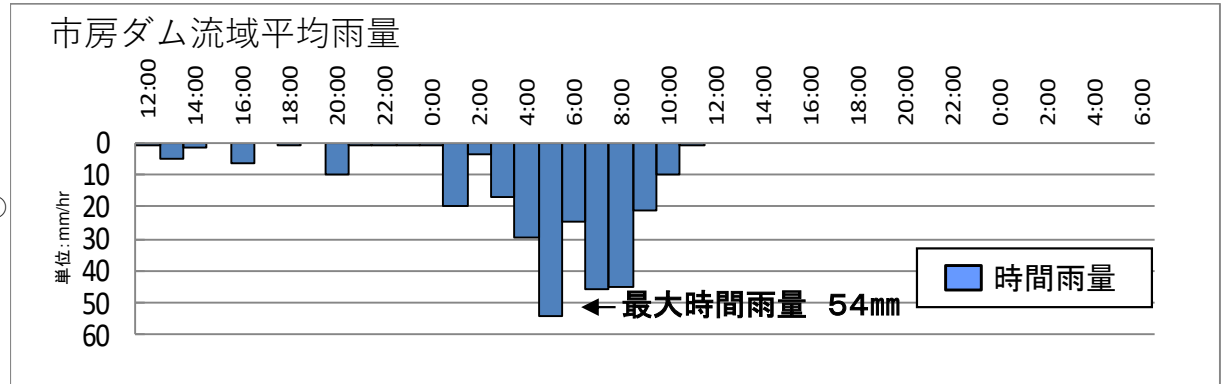
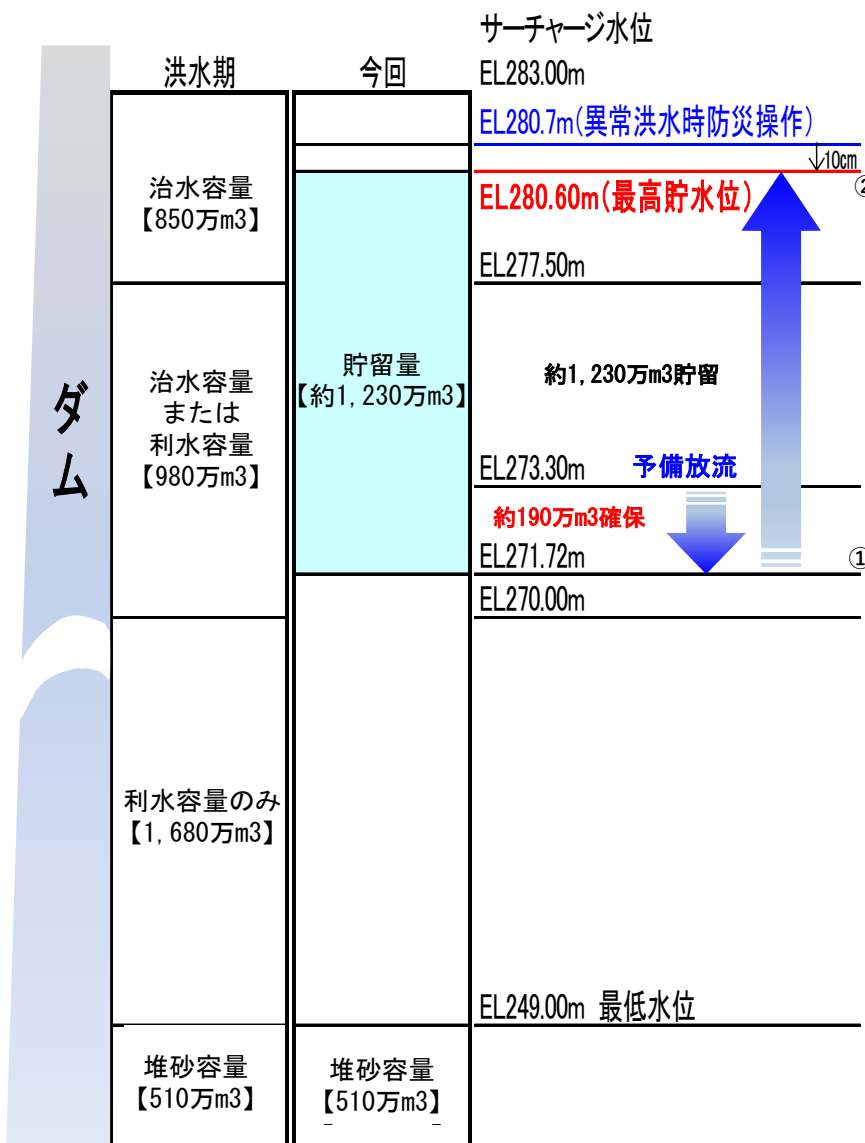
#### R2年7月豪雨時

7月4日未明からの線状降水帯の停滞状況



ダム上流域平均総雨量(7月3日~7月4日)  
443.8mm(1時~8時まで約400mm)

- 7月3日15時から7月4日2時頃まで予備放流を実施し、事前にダムの水位を低下。
- 予備放流を実施したことにより、洪水調節容量約190万m<sup>3</sup>を追加して、合計約1,620万m<sup>3</sup>確保できた。
- 最大流入時において流入量の約5割にあたる650m<sup>3</sup>/sをダムに貯めて、下流河川の水位を低減。
- 雨量や流入量の予測に基づき操作を行い、異常洪水時防災操作を行わずに済んだ。



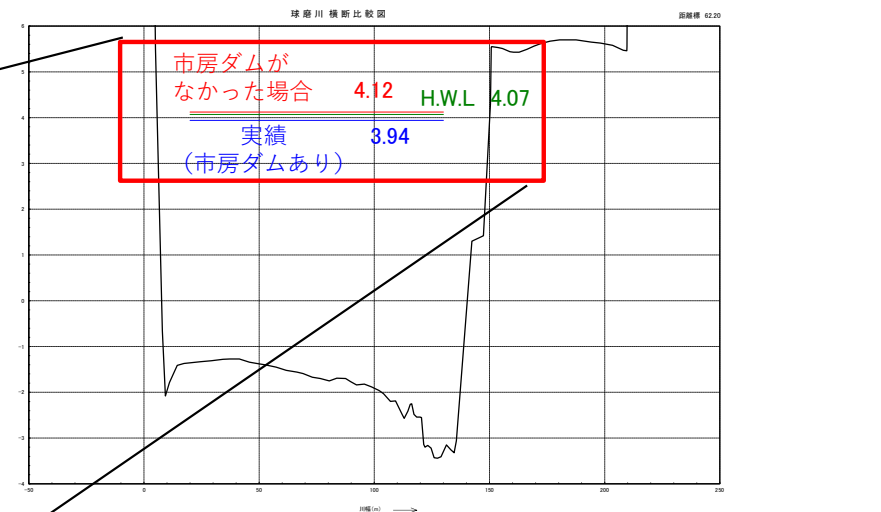
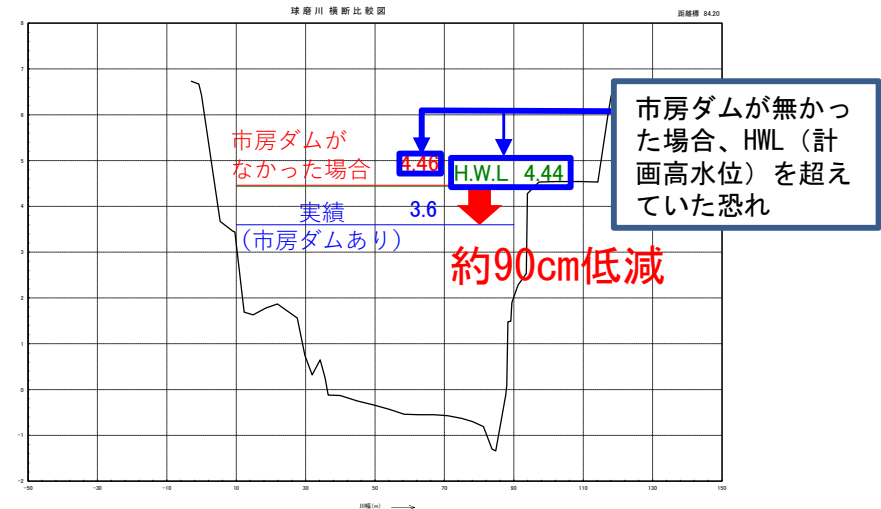
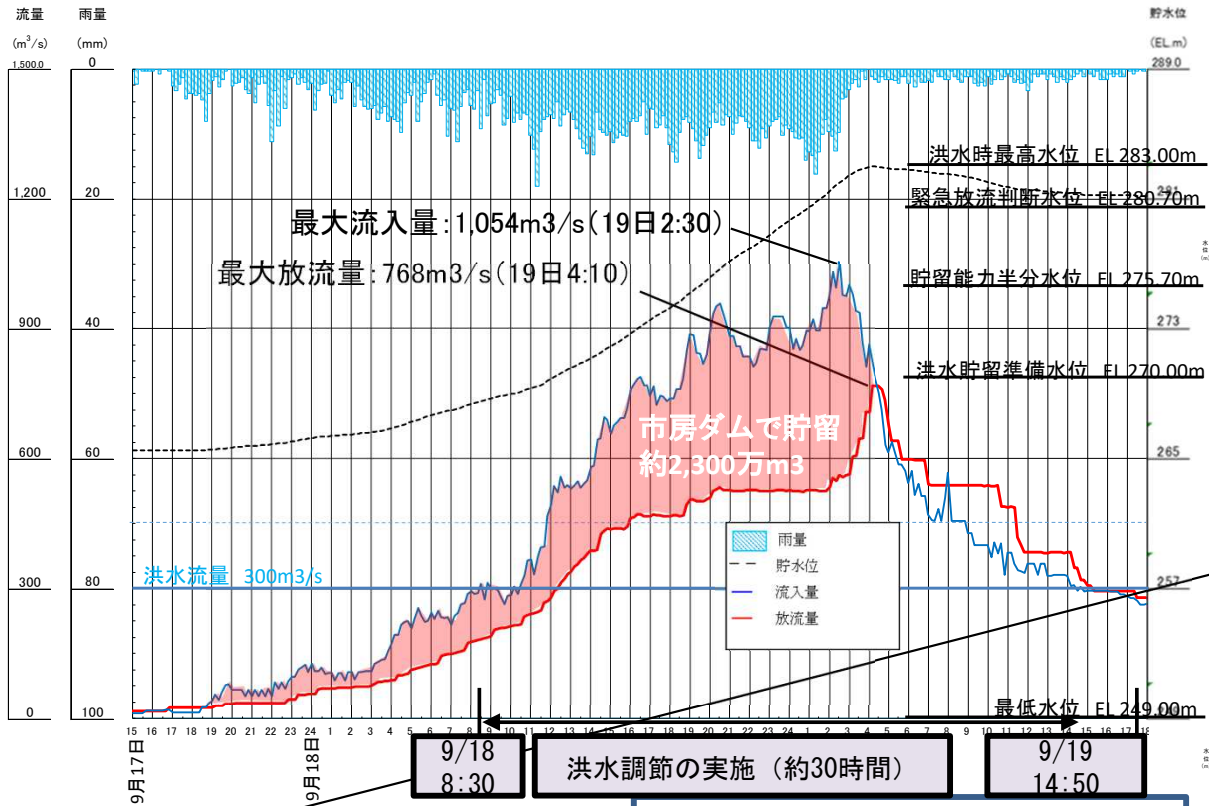
※本資料の数値は「速報値」であり、今後変更の可能性がある。

### 3. 過去の洪水時の状況

#### R4年台風第14号時



- 市房ダムでは、通常の洪水調節容量1,830万m<sup>3</sup>に加え、事前放流等により約470万m<sup>3</sup>の容量を追加確保し、計約2,300万m<sup>3</sup>貯留可能な状態で、18日8時30分から洪水調節を開始。
- 洪水調節開始流入量である300m<sup>3</sup>/sを超える流入量が約30時間継続（令和2年7月豪雨時は13時間）。
- 最大流入量1,054m<sup>3</sup>/sに対し、最大放流量768m<sup>3</sup>/sまで低減するなど、約2,300万m<sup>3</sup>を貯留した。
- 市房ダムの洪水調節により、多良木水位観測所で約90cm、人吉水位観測所で約20cmの水位低減効果があったと推定。



市房ダムが無かった場合、H.W.L (計画高水位) を超えていた恐れ

市房ダムがなかった場合 4.12 H.W.L 4.07  
実績 (市房ダムあり) 3.94 約20cm低減

※市房ダムが無かった場合の水位は、市房ダムでの洪水調節量を各地点流量に加える簡易な方法により算出している。また、本資料の数値は「速報値」であり、今後変更の可能性がある。